

演奏生活60周年

舘野 泉

ピアノ・リサイタル

J.S.バッハ(スキャンダル編曲): シヤコンヌ BWV1004より

A. スクリャーピン: 「2つの左手のための小品」Op.9より

“前奏曲 夜想曲”

光永浩一郎: 左手ピアノ独奏のためのソナタ

“苦界浄土によせる”*

I. 海の嘆き II. フーガ III. 海と沈黙

新実徳英: 夢の王国

左手ピアノのための4つのプレリュード*

I. 夢の誘惑 II. 夢の別荘 III. 夢の階段 IV. 夢は夢見る

マズロ・エスカンデ: 悦楽の園*

「聖路加の千の交響」(助成作品)

ピョートル・モジワレフ(三連奏曲)による
自由な幻想

*舘野泉に捧げる

2021.

2.11

[木・祝]

13:30開演(12:30開場)

三井住友海上しらかわホール

S席5,500円 A席4,500円(全席指定・税込)

主催: テレビ愛知 協賛: クラシック名古屋

お問合せ: テレビ愛知 事業部 052-243-8600

受付時間: 10:00~17:00

クラシック名古屋 052-678-5310

プレイガイド: アイチケット 0570-00-5310 <https://clanagn.com/ticket> チケットぴあ 0570-02-9999 <https://t.pia.jp> (Pコード: 190-357)

ローソンチケット <https://l-tike.com> (Lコード: 41999) /イープラス <https://e-plus.jp> 名鉄ホールチケットセンター 052-561-7755

芸文プレイガイド 052-972-0430 / しらかわホールチケットセンター 052-222-7117

※ご来場の際はマスクの着用をお願いいたします。中本館学見の入场はお断りいたします。※やむを得ない事情により、出演・曲順などが変更となる場合がございます。ご了承ください。



我家の庭に山茶花と海棠の二本の樹が並んでいる。

山茶花はあなたが生まれた時に植えたこと母が云っていた。そうだとすれば叔母の生木。

でも毎年10月から翌年1月くらいまで白と赤のグラデーションの花をまた咲かせる。

妻のマリヤは冬に花を咲かせるのをよく喜ぶみたいだ。北歐では11月から翌年5月までは雪と氷の世界。

自然に咲く花なんて考えられないから。

海棠は桜と少し木質に近く、樹全体を揺れ揺れ揺らすようにワシワシの花が満開になると我家にも春が訪れる。

50年前に世を去った父は海棠が大好きで、毎年手紙に写真を載せていた。

先日、絶大の演奏会で60年前に演奏したショパン作曲。

「ワグネル」ピアノと弦楽四重奏のためのワグネルの「ワグネル」が出てきた。

もう10数年前に故人とろた親友の王麗勝がワグネルが自分の器楽を持ち込んで録音してくれたのである。

演奏しているのは私と油川宣也、それに南川悠子、白井実美と私の妹晶子、須賀司。

私は熱大3年、晶子は熱大2年、そのほかのメンバーは熱大付属高校3年であった。

演奏会当日、古い楽楽堂は満席で味も抜けんばかり、安川加寿子先生も聴きにきてくださった。

ショパンは私の恋、あれを弾けたらもう心も手もいらいに思っていた。

音楽に夢をし、たぐさんの由を弾いて無我夢中で疾風のようにつけてくれた音楽家時代を思うと

未だに胸が熱くなる。60年前のショパンはCDに刻み込まれ、いま復活する。

あれから60年、年を重ねる喜び、悲しみ、辛さ、死と隣り合わせと感ずる孤独。

しかしそこにある喜び、面白さ、暖かくて悲しくておもしろい。生きてきた年月は

年輪と違ってすべて自分の中に刻まれていて、樹の年輪も父も母も私もそして音楽家もろくに

演奏することはいま生きている印（しるし）

若海浄土を抜け、夢の王国を歩き、悦楽の園にたどり着くまで、そしてその後は……

館野 泉

Profile

館野 泉 Izumi Tateno

クラシック界のレジェンド、84歳ピアニスト。東京生まれ。1960年東京藝術大学を首席卒業。1964年よりヘルシンキ在住。1981年以降、フィンランド政府の終身芸術家給与を受けて演奏生活に専念する。領域に捉われず、分野にこだわらず、常に新鮮な視点で演奏芸術の可能性を広げ、不動の地位を築いた。これまで北米、南米、オーストラリア、ロシア、ドイツ、フランス、北欧諸国を含むヨーロッパ全域、中国、韓国、フィリピン、インドネシアなどアジア全域、中東でも演奏会を行う。人間味に溢れ、豊かな叙情をたたえる演奏は、世界中の幅広い層の聴衆から熱い支持を得て、深く愛され続ける。これまでにリリースされたLP/CDは130枚におよぶ。ビュアで透明な旋律を紡ぎ出す、この至高の鍵盤詩人は、2002年に脳溢血で倒れ右半身不随となるも、しなやかにその運命を受けとめ、「左手のピアニスト」として活動を再開。尽きることのない情熱を、一層音楽の探求に傾け、独自のジャンルを切り開いた。「館野泉の左手」のために捧げられた作品は、10ヶ国の作曲家により、100曲をこえる。命の水脈を辿るように取り組んだ作品は、拓いたジャンルをも飛び越え、ただそこにある音楽だけが聴くものの心に忘れがたい刻印を残す。2012年以降は海外公演も再開し、パリやウィーン、ベルリンにおいても委嘱作品を含むプログラムでリサイタルを行い、満場の喝采で讃えられた。80歳寿記念公演では、自らに捧げられた作品2つ、左手作品の最高峰ラヴェルとビュアミット、この4つのピアノ協奏曲を一気に演奏。2019年は日本とフィンランド国交100周年親善大使として、5月にラ・テンベスタ室内管弦楽団(フィンランド)日本公演を5都市で行なった。2020年、演奏生活60周年を迎えて、全国ツアーを行う。もはや「左手」のこたわりなど必要ない、身体を超える境地に至った「真の巨匠」の風格は、揺るぎない信念とひたむきな姿がもたらす、最大の魅力である。新刊「館野泉フォトストーリー(求龍堂刊)。オフィシャル・ホームページ <https://www.izumi-tateno.com/>

コンサートへご来場の皆様へのお願い

<p>マスク着用のうえご来場ください。手洗いや指先の消毒にご協力ください。</p> 	<p>発熱や体調不良の場合はご来場をお控えください。</p> 	<p>入場時の検温にご協力ください。</p> 	<p>会場内で新型コロナウイルスの感染が疑われる発熱者が出た場合、行時検閲・保健所の指導のもとに、主催者として、チケット購入者の個人情報収集し提供する必要があります。</p>
<p>会場内ではマスクを着用し、会話を控え、自前で静かにお過ごしください。</p> 	<p>会場内での社会的距離の確保をお願いします。</p> 	<p>ホール内の検温による列割との密着差が発生する場合がございますので、屋外にご配慮ください。 <small>※アランナットの裏面はこぼりません。</small></p> 	<p>「プアフォー」等の掛け声はご遠慮ください。</p> 